

E 1 休日における主婦の生活行動  
岡山女短大 時岡晴美

目的 本研究は、第33回総会発表の「主婦における生活行動の構造——備前焼作家の妻について」に続くものである。前回、生活を構造的に把握するひとつの試みとして、生活行動を構造的にとらえようとした。備前焼作家の妻を対象として直接観察法で行なった生活行動調査から、客観的に把握しうる生活行動に着目し、日常の生活行動における法則性を探った。その結果、生活時間および生活空間の使用パターンに規則性がみられ、また、個人の行動の変動パターンが三類型に分類される等、生活行動において幾つかの規則性を把握することができた。今回は、勤労者世帯の専業主婦、共働きの主婦の、休日における生活行動を分析し、その規則性を追究するとともに、それぞれの主婦の行動特性を明らかにしようとするものである。

方法 岡山県倉敷市、広島県三原市、およびその周辺に在住する40代の主婦20名を対象に、直接観察法を用いて生活行動調査を行なった。1982年5月初旬の休日を選んで、起床から就寝まで、時間を分単位、空間を室単位にて記録した。さらに、1980年に実施した備前焼作家の妻の調査(前回発表)も考察の対象とする。

結果 外出時間は専業主婦の方が短く、居室や台所の在室時間は専業主婦の方が長い。ほとんどの主婦は、台所と居室を中心として生活しているが、空間的移動パターンをみると、その拠点性により、三類型に分類される。連続する二行動の変動パターン、隣接場所への移動パターン等に、専業主婦、共働き主婦、備前焼作家の主婦、それぞれの特徴がみられる。等々、日常の生活行動においていくつかの規則性が明らかにされた。